

○ 調査問題

問題の学力のレベル
レベル7-A

10

【メモ】と「発表原稿の下書き」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【メモ】

川越について
○ 小江戸、川越
・ 古くから「小江戸」という愛称で親しまれる。
・ 昔ながらの町並みを残していて、観光地としても人気。
○ 川越のシンボル(1)「時の鐘」
・ 約三〇年にわたって時を刻んできた。
・ 火事で焼けて、何度も再建された。
・ 市の指定文化財に指定されている。
○ 川越のシンボル(2)「蔵造り」の町並み
・ どっしりとした、黒い建物
・ 火事に強いという特徴
・ 二軒ごとに、窓の数が違う
○ 川越のいま
・ 一九九九年、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された。

【発表原稿の下書き】

私は、家族で行ったことがある、川越について調べました。川越は、古くから「小江戸」という愛称で親しまれる、伝統的な日本の風景を残した街です。①歴史を感じられるため、近年は観光地として人気です。私が行ったときも、日本人だけでなく、海外の人も来ていて、とてもぎわっていました。川越を代表する建物としては、「時の鐘」があります。この建物は、何度も再建されながら、約三〇年ものあいだ、時を刻んでいます。そして、今は「蔵造り」の町並みも有名です。これは、明治二六年に起きた大火事をきっかけに作られるようになり、た。②一軒一軒の「蔵造り」の建物は、窓の数が違うという個性もあります。私も、ひらひらと少しづつ違いがあることが興味深くて、夢中になって見ていました。川越は、一九九九年に、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。「小江戸」川越は、歴史ある地域として、大切にされているのです。今回調べてみて、川越という、自分が住む埼玉県の新たな魅力に気づくことができました。

- (1) 森田さんの「発表原稿の下書き」には、発表をする上で、どのような工夫がありますか。次の1〜4の中から一つ選びなさい。
- 1 聞き手に具体的なイメージを伝えるために、自分の体験を取り入れている。
 - 2 聞き手が理解しやすいように、話の全体構成を伝えてから説明している。
 - 3 聞き手がさらに情報を得られるように、調べるのに使った資料を示している。
 - 4 聞き手に関心をもたせるために、呼びかけの表現を使っている。

○ 調査問題の趣旨・内容

「目的に応じて話の構成を工夫する」ことができるかどうかをみる問題

【問題内容】 発表原稿の工夫を説明している文を選択する。

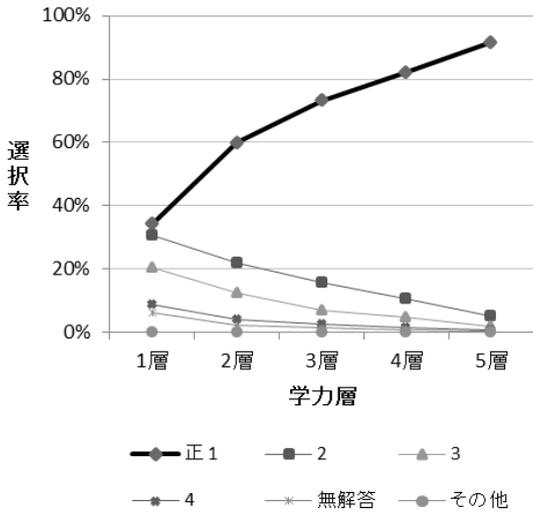
【作成の趣旨】 この問題は発表原稿の工夫を説明している文を選択する力をみる問題である。この問題では、選択肢に挙げられている内容をヒントにしなが、発表の工夫に気づき、示された文章を読み取り、あてはまるかどうか確認する力が求められる。また、他の言葉にまどわされずに、文章の中の主要語句や要点をとらえ、書いてある内容を理解できる力も求められる。繰り返し文章を音読したり、要点を取り出したり、文章を簡潔に要約したりする活動を日頃から行う必要がある。また、相手に伝わりやすい発表の仕方を日頃から指導し、意識させることも必要である。

○ 誤答分析

出題のねらい	解答類型	①正答	2	3	4	無解答	その他
目的に応じて話の構成を工夫することができる		70.6%	15.6%	8.5%	3.2%	2.0%	0.0%

正答である選択肢1には、「自分の体験を取り入れている。」と示されていた。発表原稿の下書きの一行目に「家族で行ったことがある、川越について」というわかりやすい内容が書いてあったので、非常に選びやすい解答で正答率も高かったと予想される。誤答で一番多かった選択肢2には、「話の全体構成を伝えてから説明している」と示されていた。下書きには「川越について調べました。」と書いてあるだけだが、それを「全体構成の提示」ととらえてしまった理解不足が予想される。次に多かった選択肢3には「使った資料」、選択肢4には「呼びかけの表現」と、明らかに下書きに出てこない内容が示されていたにもかかわらず、レベル1や2の生徒を中心に選択してしまっている。時間が足りなくて、下書きや選択肢をよく読まずに選択した可能性も高い。すばやく文章の要点を読み取らせる指導が求められる。

○ G - P 分析



- 選択肢で解答する形式で、70・6%と、高い正答率が見られ、答えやすい問題だったといえる。
- 無解答率は、1層でも約10%で、少なくなっている。
- 難解な問題ではないといえるが、1層の正答率が約35%と低くなっているため、1～2層の生徒を対象に文章読解力の着実な定着を目指すことが求められる。

○ 指導上の改善ポイント

相手にわかりやすい発表の工夫を学ぶ指導 伝わりやすい発表のための工夫を、発表原稿を書く際に指導しておく。

(指導例)

- (1) 始めに結論を言う。→次に理由や説明の具体例→まとめ
- (2) 説明をいくつするのか、先に示す。(例)「これから、○○について3つ説明します。1つ目は…2つ目は…」
- (3) 大切なキーワードは、一段落に一事項とする。
- (4) 具体例や自分の体験を交えて発表する。ときには資料を提示しながら発表する。
- (5) 事実と、意見や考察を区別して伝える。

発表の仕方の指導

中学生になると、人前で発表することに恥ずかしさや緊張を覚えるようになり、声が小さくなったり早口になったりする場合がある。そこで、効果的な発表の方法や評価を事前に伝え、発表前には必ず練習や覚える時間を設定し、安心して自信を持って発表できるように指導する必要がある。

(指導例)

- (1) 教室の後ろにいる人にも聞こえるように、はっきりとした声で発表する。
- (2) 一分間に350字程度読む早さで、早口にならないように発表する。
- (3) 顔を上げ、時々、聞いている人を見ながら発表する。

主要語句を抜き出す指導、文章の展開の工夫を学ぶ指導 (例)「ちょっと立ち止まって」中学1年

- (1) ⑩段落を、みんなで声をそろえて音読しなさい。
 - (2) 「他の見方」とは何を変える見方ですか。2つ探して書き抜きなさい。
- 【解答】「中心」と「距離」
- (3) 「中心」を変える見方の具体例が書かれているのは、何段落から何段落までですか。具体例は何ですか。
- 【解答】②～⑦段落、「ルビンのつぼ」「橋と少女」「上の図(若い女性とおばあさんの絵)」
- (4) 「距離」を変える見方の具体例が書かれているのは、何段落から何段落までですか。具体例は何ですか。

【解答】⑧～⑨段落、「左の図(女性とおばあさんの絵)」「富士山とビル」

指導のポイント

- (1) 教材文は、必ずしも読み取りやすい順番で記述されているとは限らない。また、要点を読み取るために必要な部分と、読み飛ばした方がわかりやすい部分もある。そこで、要点を読み取りやすくするために、主要語句が出てくる部分に注目させ、全体構成に気づかせる指導を行う。
- (2) 「具体例の内容」や「具体例の数」など、自分が文章を書く際の手本になる要素に着目させ、学ばせる。

○ 調査問題

問題の学力のレベル
レベル 8-C

7

次の(1)～(7)の文では、()の中の1～4のどれが適切ですか。それぞれ一つ選びなさい。

- (1) 「義務」の反対の意味の言葉は
 (1 権利 2 責任 3 破壊 4 反省) である。

○ 調査問題の趣旨・内容

「熟語の意味と対義語を理解する力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 4つの二字熟語の中から対義語として適切なものを選択する。

【作成の趣旨】 熟語の意味を理解し、その語句の対義語の知識を問う問題である。小学校第1学年及び第2学年の指導事項である「言葉が小さな意味の単位である語句によって構成され、それらの語句が意味のまとまりによって語句の集合体(語彙)になっていることに気付くこと」を受けて、中学校第1学年の指導事項である「(イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと。(ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。」に関わる問題で、辞書的な意味を踏まえ、「語感を磨くこと」をねらいとして、この問題を作成した。

○ 誤答分析

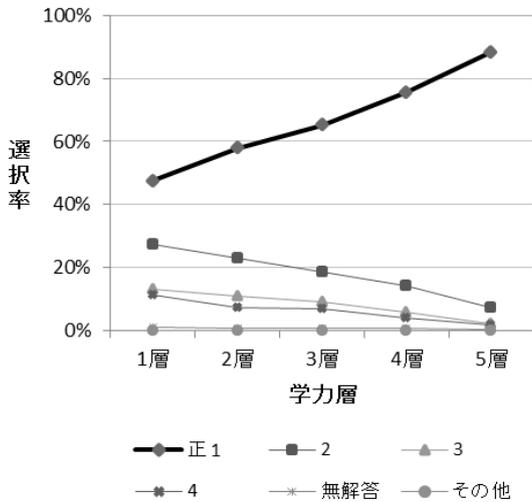
解答類型	①正答	2	3	4	無解答	その他
出題のねらい						
適切な対義語を選択できる	68.2%	17.4%	7.9%	5.9%	0.6%	0.0%

正答率は68.2%であり、推定正答率60.0%をやや上回っていることから、理解している生徒が多いと考えられる。誤答のうち、最も多かったのは2の「責任」であり、17.4%に上った。

「義務」の意味は「やらなければいけないことになっていることがら」であり、「責任」の意味は「自分が引き受けた任務」である。このように意味が比較的似ていることから、関連する言葉だと思い込んで選択してしまった可能性が考えられる。

「語感を磨く」ためには、多くの本などを読んで新しく出合った言葉を取り立て、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えることを習慣化させることが大切である。また、同時に実生活に関連させながら指導することも必要である。「義務」と「権利」といった対義語は、社会と関連付けながら理解させる指導が有効である。

○ G - P 分析



○学力層が上がるほど、正解の「選択肢1」を選んだ生徒が増えていく。特に、5層の生徒は9割近くが正解している。一方で4層の生徒は20%以上が誤答している。

○1層と2層の生徒を合わせると、正解率は約50%である。

○どの層でも誤答として選択肢2の「責任」を選んでいる生徒が多い。

○ 指導上の改善ポイント

「反対の意味の言葉」については、小学2年生で「ほんたいのいみのことば」として学習し、その後は、中学2年生で「対義語」として学習する。その間には取り立てて「反対の意味の言葉」を学習する機会はない。したがって、学習指導要領で述べられているように、「語句の意味について調べたことを記録させたり、その語句を使った短文を作らせたりすることなどが有効である。また、『C読むこと』(1)の『ア文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。』などと関連を図って指導する。」ことを念頭に置き、語句の意味の定着を図ることが大切である。その上で、「対義語」をもつ語句を扱った時に、対応する語句の意味を的確に指導することも心がけたい。また、「対義語」とともに「類義語」も合わせて指導することで「語句の意味」の学習効果を上げることができる。さらに、「義務」と「権利」という言葉については、小学6年生の社会科で学習していることから、他教科や実生活に関連付けて指導することで理解を深めることができると考えられる。

「語句の意味」の学習指導

- ①辞典の使い方等を学習する際に、「対義語」と「類義語」も合わせて学習する。
- ②教科書の語句の意味調べをする際に、「対義語」「類義語」も調べる。
- ③調べた語句や「対義語」「類義語」を使って短作文を作る。
- ④マッピングを用いて「対義語」「類義語」を数多く集めて整理する。
- ⑤辞典を使って、「対義語」「類義語」の問題を作成する。

「語句の意味」を実生活に関連付けて学習する指導

- ①新聞記事の中から「対義語」や「類義語」の候補となる語句を探し出し、どんな分野で使われているかを確認する。
- ②自分の学校や部活動をアピールするためのキャッチコピーを「対義語」や「類義語」を使って作成する。
- ③「にたいみのことば ほんたいのいみのことば」を学習する小学校2年生に「対義語」「類義語」の例を使ってわかりやすく説明する資料を作る。(「小中連携」の視点)

「語句の意味」に興味を持たせる指導例



辞典で「右」という語句がどんなふう
に説明されているかを考える。

(個人→グループ→全体)

- ・南を向いた時、西にあたる方。

(広辞苑)

- ・アナログ時計の文字盤に向かった時に、1時から5時までの表示のある側。

(新明解国語辞典)

- ・この辞書を開いて読む時、偶数ページのある側をいう。

(岩波国語辞典)

- ・「一」の字では、書きおわりのほう。「リ」の字では、線の長いほう。

(三省堂国語辞典)

「対義語」「類義語」という用語は、中学2年生の学習内容であるが、それよりも前に学習用語として紹介することで、さらなる興味を持って語句の意味をとらえようとする生徒もいると思われるので、中学2年生より前に紹介することも有効である。

○ 調査問題

問題の学力のレベル
レベル 11-B

5

次の文章の——線部ア、オのうち、〈活用形〉が同じ動詞が二つあります。それはどれとどれですか。その記号を書きなさい。
また、その〈活用形〉をあとに1～6の中から一つ選びなさい。

弟の怒りはなかなかおさまらなかつた。父が「いいかげん機嫌直せよ。」と
なだめても、母が「意地を張るのはやめなさい。」としかつても、顔を
上げようとしない。

- 1 未然形
- 2 連用形
- 3 終止形
- 4 連体形

- 5 仮定形
- 6 命令形

〈活用形〉が同じ動詞

と

〈活用形〉

○ 調査問題の趣旨・内容

「動詞の活用を理解する力」が身に付いているかどうかをみる問題

【問題内容】 活用形が同じ動詞を選び、その活用形を選択する。

【作成の趣旨】 この問題は「動詞の活用形」について理解しているかどうかをみる問題である。

この問題のポイントは「動詞の活用形」「語幹」「活用語尾」の理解であり、活用語尾のあとに続く言葉を識別する力が求められる。また、「活用の種類」について理解していることも正答を求めるために大切である。

昨年度、出題された「動詞の活用の種類」を問う問題（正答率10.6%）に続き、中学校2学年で既習している「動詞の活用形」の理解が定着しているかどうかを把握する問題である。

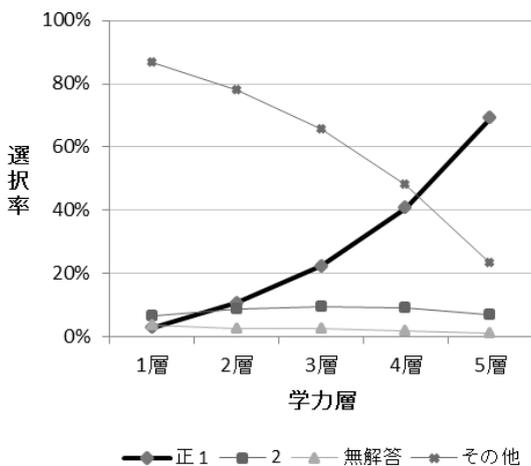
○ 誤答分析

出題のねらい	解答類型	①正答	2	無解答	その他
動詞の活用を理解することができる		29.7%	8.2%	2.3%	59.8%

活用形が同じ動詞の選択はできているが、活用形の名称がわからないものは8.2%である。活用形の名称は選択できても、活用形が同じ動詞の選択を誤ったものは、解答類型「その他」の59.8%に含まれる。この結果から、動詞の活用形についての理解はかなり低いと考えられる。

また、活用形の名称は選択できたが、同じ活用形の動詞の選択を誤った場合、一因として、動詞「五段活用」（「おさまる」「直す」「張る」「しかる）」「サ行変格活用」（「する」）の活用の種類について理解が十分でなかったことが考えられる。活用形と同様に活用の種類についても理解を深めることが課題である。

○ G - P 分析



- 本設問は正答率が29.7%と全体として低く、5層でも正答率は70%を切り、4層で40%程度、3層で20%程度と、3、4層の中位層でも正答率が半分を割り、層が下がるにつれて理解が低くなっていることが読み取れる。
さらに、2層で10%程度、1層では3%を切り、層によって理解に大きな差がある。
- 全体の約60%が「その他」を選択しているが、その中でも、1層が約87%、2層が約78%、3層が65%を占めている。「その他」には、活用形の名称は選択できても、活用形が同じ動詞の選択を誤ったものも含まれる。下位層ほど、動詞の活用形・動詞の活用の種類についての理解が不十分であることが読み取れる。

○ 指導上の改善ポイント

活用形や活用の種類について、曖昧な理解では問題を解くことが難しい。確実に基礎知識を理解し、身に付けさせることが大切である。様々な言語活動を通して、多くの問題にふれ、理解を深めさせたい。

【確実に身に付けさせたい学習内容】

① 活用形の意味を理解し、名称を覚える。

- 未然形 → 「未だ起きない」の意
- 連用形 → 下の用言に続くときに使われる形
- 終止形 → 文を終止するときに使われる形
- 連体形 → 下の体言に続くときに使われる形
- 仮定形 → 「もし~ならば」の意
- 命令形 → 命令や指示をするときに使われる形

② 動詞のうしろに続く主な言葉を覚える。

「語幹」と「活用語尾」を教えた後、活用語尾に続く主な言葉の共通性に気付かせる。

- 未然形 → ない・う・よう
- 連用形 → ます・た・て
- 終止形 → ○
- 連体形 → とき・こと
- 仮定形 → ば
- 命令形 → ○

※活用の種類（「五段活用」「上一段活用」「下一段活用」「カ行変格活用」「サ行変格活用」）によって活用の仕方が変わることを理解する。活用の種類毎に動詞を類別させ、それぞれの規則性に気付かせる。

「活用形の意味」「動詞のうしろに続く主な言葉の共通性」「活用の種類」について理解させる指導

- ア できるだけたくさんの動詞を集める
- イ 個人で、共通性を探す
- ウ グループで意見を出し合い、共通性についてまとめる

【「動詞のうしろに続く主な言葉」「活用形の名称」の覚え方】

(例)

- ・ 「替え歌」など覚えやすい節に乗せて暗記する
- ・ 「フラッシュカード」等を使用し、変化をつけ繰り返し声に出す
- ・ 「暗記タイム」等を設けて、ゲーム形式・テスト形式で相互評価する

※文法に関する問題を生徒に作らせ、互いに解き合ったり、解説させたりする活動を通して理解を深めさせる。

奥の深い言葉の仕組みに気付かせ、言葉への関心をもたせることが大切！